

3 防水改修工事

- 1 アスファルト防水 (3.1.4) (3.3.3) (表3.3.3)~ (表3.3.10)
(3.3.2)
(3.3.3) (b) (2)
(3.3.3) (c)
(3.3.5)
(3.4.1)~ (表3.4.3)
(3.4.3)
(3.5.1)~ (表3.5.3)
(3.5.3)
(3.5.4)
(3.6.3)
(表3.6.1)
(3.6.3) (a)
(3.6.3) (b)
(3.2.6) (c) (2)
(3.2.6) (c) (6)

Table with columns: 工法, 種別, 施工箇所, 仕上塗料. Includes sections for 改質アスファルトルーフィングシート, 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート, 断熱工法の断熱材, 脱気装置, ルーフィングシート, 合成高分子系ルーフィングシート防水, 塗膜防水, 既存防水層表面の仕上塗料の除去.

4 外壁改修工事

- 6 シーリング (3.7.2) (表3.7.1)
(3.7.4)~(7)
(3.7.8)
7 とい (3.8.2) (表3.8.1)
8 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (c) (表3.9.1)
(3.9.3) (b)
(3.9.3) (d)
(3.9.3)
1 施工数量調査 (4.1.4)
2 改修工法の種類 (4.1.4) (4.1.5)

Table with columns: 外壁, 種類, 改修工法. Includes sections for シーリング, アルミニウム製笠木, 施工数量調査, 改修工法の種類.

3 改修工法等

- (4.2.2) (a)
(4.3.4)
(4.4.5)
(4.5.5)
(4.2.2) (b)
(4.3.5)
(4.4.6)
(4.5.6)
(4.2.2) (c)
(4.3.6)
(4.4.7)
(4.2.2) (d)
(4.3.7)
(4.4.8)
(4.2.2) (g)
(4.4.9)
(4.2.2) (e)
(4.4.10)
(4.4.1)
(4.2.2) (e)
(4.4.11)
(4.4.2)
(4.2.2) (f)
(4.4.13)
(4.4.3)
(4.2.2) (f)
(4.4.14)
(4.4.4)
(4.2.2) (f)
(4.4.15)
(4.4.4)
(4.2.2) (h)
(4.5.7)
(4.2.2) (h)
(4.5.8)
(表4.5.4)
(4.5.15)
(4.2.2) (h)
(4.5.16)

Table with columns: 樹脂注入工法, シール工法, 充填工法, モルタル塗替え工法, アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法, アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法, アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法, 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法, 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法, 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法, タイル部分張替え工法, 変成シリコン樹脂/エポキシ樹脂/ポリウレタン樹脂, タイル張替え工法.

Table with columns: 備考, 公益財団法人 三重県建設技術センター

公益財団法人
三重県建設技術センター

Table with columns: Job Title (三重県立看護大学 中庭地盤沈下改修工事), Drawing Title (建築工事特記仕様書(改修) 2), DATE (2022-10), SCALE (No Scale), A-02

4 塗り仕上げ (4.2.2)(j) (表4.2.4(その1) (その2))	種 類	呼び名	仕上げ形状	工法
	薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 ・ 平坦状 ・ 凹凸状	吹付け こて ローラー
	厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平坦状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し ・ 掻き落とし	吹付け こて
	複層仕上塗材	・ 外装厚塗材Si ・ 外装厚塗材E	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平坦状 ・ 凹凸状 ・ ひき起し	吹付け こて ローラー
可とう形改修用 仕上塗材	・ 可とう形改修塗材E ・ 可とう形改修塗材RE ・ 可とう形改修塗材CE	・ 平坦状 ・ さざ波状 ・ ゆず肌状	ローラー 吹付け	

・ 外装厚塗材Cの上塗材がセメントスタッコ以外の場合
材所要量 (kg/m²)

・ マスチック塗材塗り ・ A種 ・ B種
仕上材塗り ()

(表4.2.5) 複層仕上塗材の上塗材の種類

樹脂種類	溶媒種類	外 観
・ アクリル系	・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック ・ 艶有 ・ 艶無
・ シリカ系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
・ ポリウレタン系	・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系 ・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック ・ 艶有 ・ 艶無 ・ 艶有 ・ 艶無
・ アクリル シリコン系	・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系 ・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック ・ 艶有 ・ 艶無 ・ 艶有 ・ 艶無
・ ふっ素系	・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系 ・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック ・ 艶有 ・ 艶無 ・ 艶有 ・ 艶無

(注) 艶無及びメタリックは、可とう形複層塗材、防水形複層塗材、及び可とう形改修塗材には適用しない。

(表4.6.3) 既存塗膜等の除去及び下地処理

工法	処理範囲
・ サンダー工法	
・ 高圧水洗工法	
・ 塗膜はく離工法	
・ 水洗い工法	
・ デッキブラシ	
・ 高圧ポンプ	

(表4.6.4) 下地調整

・ C-1 ・ C-2 ・ CM-2 ・ E ・ ()

5 建具 改修工事	1 改修工法 (5.1.3)	・ かぶせ工法 ・ カバー工法 ・ 持出し工法 ・ ノンシール工法
	2 防火戸 (5.1.4)	・ 撤去工法 ・ はつり工法 ・ 引抜き工法
	3 見本の製作 (5.1.5)	・ 例示仕様 ・ 個別認定 (認定番号:) ・ 自動閉鎖機構 ・ 図示 (図面番号:)
	4 防犯建物部品 (5.1.7)	・ 製作する ・ 製作しない
	5 ブラインドボックス等 (5.1.6)(c)	・ 図示 (図面番号:)
	6 アルミニウム製 建具 (5.2.2) (5.2.4) (表5.2.1) (表5.2.2)	性能等級等 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ・ 耐震ドアセット (等級) ・ 結露水の処理方法 ・ 図示 (図面番号:)

アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理の種別

・ 外部に面する建具
・ B-1 ・ B-2 ・ ()

・ 内部に面する建具
・ C-1 ・ C-2 ・ ()

7 網戸 (5.2.3)(e)	・ 可動式 ・ 固定式 防虫網の材質 ・ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製 網目 ・ 16メッシュ ・ 18メッシュ
8 樹脂製建具 (5.3.2)~(5.3.5) (表5.3.1)~ (表5.3.3)	性能等級等 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ガラス ・ 複層ガラス ・ () 建具枠見込寸法 ・ 図示 (図面番号:) 水切り ・ 図示 (図面番号:) ぜん板 ・ 図示 (図面番号:) 丁番 ・ 改修標準仕様書(表5.7.3)による ・ 図示 (図面番号:)
9 鋼製建具 (5.4.2)	鋼製建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 外部に面する建具の耐風圧 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ・ 耐震ドアセット (等級) ・ めっき付着量 JIS G 3302 ・ Z12 ・ F12 ・ () JIS G 3317 ・ Y08 ・ ()
10 鋼製軽量建具 (5.5.2) (5.5.5) (5.2.2)(b) (5.5.3) (5.5.4) (5.7.3)(a) (5.2.3)(a)	鋼製軽量建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ・ 耐震ドアセット (等級) ・ H2400又はW950の建具 鋼板類の厚さ ・ 図示 (図面番号:)
11 ステンレス製 建具 (5.6.2) (5.4.2)	表面仕上げ ・ 塗装 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板 (・ HL ・ 鏡面)
12 建具用金物 (5.7.2) (5.7.4)	ステンレス製建具の性能等級 ・ 簡易気密性ドアセット ・ 外部に面する建具の耐風圧 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 ・ 防音ドアセット、防音サッシ (等級) ・ 断熱ドアセット、断熱サッシ (等級) ・ 耐震ドアセット (等級)
13 自動ドア開閉 装置 (5.8.2) (5.8.3) (表5.8.3)	材料 ・ SUS304 ・ ()
14 自閉式上吊り 引戸装置 (5.9.3)	表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ () 曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ
15 重量シャッター (5.10.2) (5.10.2)(c) (表5.10.1) (5.10.2)(f) (5.10.3)	金物の見え掛り部等の材質等 ・ 改修標準仕様書(表5.7.1)による ・ 図示 (図面番号:)
16 軽量シャッター (5.11.2) (表5.11.1) (5.11.4)	マスターキー ・ 製作する ・ 製作しない 引渡用鍵箱 ・ 必要 ・ 不要
	開閉装置の性能値 ・ 図示 (図面番号:)
	センサーの種類 ・ 図示 (図面番号:)
	凍結防止措置 ・ あり ・ なし
	自閉式上吊り引戸装置の性能値 ・ 改修標準仕様書(表5.9.1)による ・ ()
	種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター
	耐風圧強度 (Pa以上)
	開閉機能 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式
	一般重量シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ ()
	開閉形式 ・ 上部電動式 (手動併用) ・ 手動式
	耐風圧強度 (Pa以上)
	スラットの材質及び形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 ・ めっき付着量 JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () JIS G 3322 ・ A290 ・ ()

17 オーバーヘッド ドア (5.12.2)	型式及び機構 セクション材料 ・ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ 耐風圧強度 (Pa以上) 開閉方式 ・ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式 収納形式 ・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形	
18 板ガラス (5.13.2)(a) (5.13.4)	ガイドレール ・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ 図示 (図面番号:)	
19 ガラス留め材 (5.13.2)(b)	・ シーリング ・ ガスケット ()	
20 ガラス溝の寸 法、形状等 (5.13.3)	・ 図示 (図面番号:) ・ 改修標準仕様書 (表5.13.1) による	
21 ガラスブロッ ク積み (5.13.5)	ガラスブロック 表面形状、寸法、厚さ ・ 図示 (図面番号:) 金属枠、補強材 ・ 図示 (図面番号:) 化粧カバー ・ 図示 (図面番号:) 工法 ・ 図示 (図面番号:) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する。	
6 内装 改修工事	1 一般事項 (6.1.3)(b)	既存間仕壁の撤去に伴う取り合い部分の改修範囲 改修部分 改修範囲 ・ 天井 ・ 図示 (図面番号:) ・ 壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ 床 ・ 図示 (図面番号:)
	(6.1.3)(c)	天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い部の天井改修範囲 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()
	(6.1.3)(f)	天井の撤去に伴う取り合い部の壁面改修 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()
	2 既存床撤去、下 地補修 (6.2.2)(a)(1) (6.2.2)(a)(2) (6.2.2)(c)	既存床仕上げ材の除去等 浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去 ・ 行う ・ 行わない
	(6.2.2)(a)(2)	合成樹脂塗り床材の除去等 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法
	(6.2.2)(c)	改修後の床の清掃範囲 ・ 施工範囲及び施工によって汚れが生じた範囲 ・ ()
	3 既存壁撤去、下 地補修 (6.3.2)	既存間仕壁の撤去に伴う他の構造体の補修工法 ・ ()
	4 木下地等 (6.5.1)(c) (表6.5.1) (6.5.2)(a)(2) (表6.5.2) (6.5.2)(b)(1) (6.5.2)(b)(2) (6.5.2)(b)(3) (表6.5.3)	表面仕上げ ・ A種 ・ B種 ・ C種 木材の含水率 (工事現場搬入時、質量比) 部材名称 種 別 下地材 ・ A種 ・ B種 造作材 ・ A種 ・ B種
	(6.5.2)(b)(1)	製材 「製材の日本農林規格」による製材 部位 樹種・寸法・形状 等級 含水率 下地用 針葉樹製材 (図面番号:) ・ () ・ () 造作用 針葉樹製材 (図面番号:) ・ () ・ () 広葉樹製材 (図面番号:) ・ () ・ ()
	(6.5.2)(b)(2) (6.5.2)(b)(3) (表6.5.3)	「製材の日本農林規格」以外の製材 樹種、寸法、材質の品質、防虫処理、難燃処理及び含水率 ・ 図示 (図面番号:) 造作材の材質の品質 ・ A種 ・ () 樹種
(6.5.2)(b)(3) (6.5.2)(c)(i)	部 位 樹 種 県 産 材 代用樹種の使用 ・ 禁止する ・ 禁止しない 造作用集成材 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 部 位 樹 種 ・ 寸 法 見付け材面の等級 厚さ 造作用集成材 ・ 図示 (図面番号:) ・ () 化粧ばり造作用集成材 ・ 図示 (図面番号:) ・ () 化粧ばり構造用造作用集成柱 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	

備 考		

公益財団法人 三重県建設技術センター	Job Title 三重県立看護大学 中庭地盤沈下改修工事	DATE 2022 - 10
	Drawings Title 建築工事特記仕様書 (改修) 3	SCALE No Scale
	設計担当者	
		A - 03

(6.5.2)(c)(ii) 「集成材の日本農林規格」以外の製材
樹種、寸法、見付け材の品質 ・ 図示 (図面番号:)
含水率 ・ 15%以下 ・ ()

(6.5.2)(d)(i) 造作用単板積層材
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材
部位 厚さ 表面の品質 防虫処理
造作用単板積層材 図示 (図面番号:) () ()

(6.5.2)(d)(ii) 「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材
厚さ、表面の品質、防虫処理 ・ 図示 (図面番号:)
含水率 ・ 14%以下 ・ ()

(6.5.2)(e) ・ 床張り用合板等
部材名称 樹種名 接着の程度 等級 板面の品質 防虫処理等 厚さ

(6.5.5)(a) ・ 防腐、防蟻処理
適用部位 図示 (図面番号:)
保存処理性能区分 ()
薬剤の塗布等の処理方法 ()
ボード原料接着剤への防腐・防蟻処理 ()

(6.5.5)(b) ・ 防虫処理
・ 図示 (図面番号:)

5 軽量鉄骨天井下地
(6.6.2)
(表6.6.1)
(6.6.3) 野縁等の種類
・ 屋内 ・ 19形 ・ ()
・ 屋外 ・ 25形 ・ ()
形式及び寸法
・ 屋外 ・ 図示 (図面番号:)
・ 耐震天井 ・ 図示 (図面番号: A-8~A-19)
・ ふところ≧1.5m ・ 改修標準仕様書(6.6.4)(h) ・ 図示 (図面番号:)
・ ふところ>3m ・ 図示 (図面番号:)

(6.6.4) 既存埋込みインサート
・ 使用する ・ 使用しない
既存埋込みインサート、あと施工アンカーの引き抜き試験
・ 行う (図面番号:) ・ 行わない
耐震天井
・ 図示 (図面番号: A-8~A-19)

6 軽量鉄骨壁下地
(6.7.3) スタッド、ランナー等の種類
・ 図示 (図面番号:)

7 ビニル床シート、
ビニル床タイル
及びゴム床タイル
張り
(6.8.2)
(6.8.2)(a) 材料
・ ビニル床シート【JIS A 5705 (ビニル系床材)】
種類の記号 色柄 厚さ 備考
FS 柄 2.0mm

(6.8.2)(b) ・ ビニル床タイル【JIS A 5709 (ビニル系床材)】
種類の記号 厚さ 備考
半硬質ビニル床タイル 2.0mm

(6.8.2)(c)(i) ・ 帯電防止床シート又は床タイル
種類 性能 厚さ 備考

(6.8.2)(c)(ii) ・ 視覚障害者用床タイル
種類 形状 備考
ビニル床タイル 300×300×7.0mm

(6.8.2)(c)(iii) ・ 耐動荷重性床シート
種類 性能 厚さ 備考

(6.8.2)(c)(iv) ・ 防滑性床シート又は床タイル
種類 性能 厚さ 備考

(6.8.2)(e) ・ ゴム床タイル
種類 厚さ 備考

(6.8.3)(a) 工法
下地 ・ モルタル下地 ・ 木下地 ・ その他 ()

(6.8.3)(b) ビニル床シート張り
熱溶接工法 ・ 適用する ・ 適用しない

8 カーペット敷き
(6.9.3)(a)
(表6.9.1) ・ 織じゅうたん
種類 バイルの形状 帯電性 品質の程度
・ A種 ・ カットバイル ・ 人体帯電圧 3KV以下 ・ ()
・ B種 ・ ループバイル ・ ()
・ C種 ・ カット、ループ併用 ・ ()
品質の程度欄に記載した商品名は、品質の程度を示すための参考商品名である。(以下同様)

(6.9.3)(b) ・ タフテッドカーペット
バイルの形状 バイル長(mm) 帯電性 工法 品質の程度
・ カットバイル ・ 人体帯電圧 3KV以下 ・ 全面接着工法 ・ ()
・ ループバイル ・ ()
・ カット、ループ併用

(6.9.3)(c) ・ ニードルパンチカーペット
厚さ(mm) 帯電性 備考
・ 人体帯電圧 3KV以下 ・ ()

(6.9.3)(d) ・ タイルカーペット
種類 バイルの形状 寸法(mm) 総厚さ(mm) 品質の程度
・ カットバイル ・ 500×500 ・ 6.5 ・ ()
・ ループバイル ・ ()

(6.9.3)(e) 下敷き材 ・ 第2種第2号、厚さ8mm ・ ()
(6.9.3)(f) 見切り、押え金物 ・ 適用する(材質、種類及び形状 ・ 図示(図面番号:))

(6.9.4)(e) 敷き方
平場 ・ 市松敷き ・ 模様流し ・ ()
階段部分 ・ 市松敷き ・ 模様流し ・ ()

9 合成樹脂塗床
(6.10.3)(b)(1)
(表6.10.4)
(6.10.3)(b)(2)
(6.10.3)(c)
(表6.10.5)~
(表6.10.8) 弾性ウレタン樹脂系塗床の仕上げ種類、工程
・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
エポキシ樹脂系塗床の仕上げ種類
・ 薄膜流し厚べ仕上げ(平滑、防滑) ・ 厚膜流し厚べ仕上げ(平滑、防滑)
・ 樹脂モルタル仕上げ(平滑、防滑) ・ 薄膜型塗床仕上げ(平滑)

10 フローリング
張り
(6.11.4)
(表6.11.2) ・ 釘留め工法
材料 種類 樹種
・ フローリングボード(根太張用) ・ なら
・ 複合フローリング(根太張用) ・ A種 ・ ()
・ B種
・ C種
防湿処理 ・ 図示(図面番号:)

(6.11.5)
(表6.11.3)
(表6.11.5) ・ 接着工法
材種 樹種 厚さ 大きさ
・ フローリングボード(直張用)
・ フローリングブロック(厚張用)
・ 複合1種フローリング(直張用) ・ A種 ・ なら
・ 複合2種フローリング(直張用) ・ B種 ・ ()
・ 複合3種フローリング(直張用) ・ C種
・ モザイクパーケット(直張用) ・ () ・ () ・ ()
緩衝材 ・ 合成樹脂発泡シート ・ 図示(図面番号:)

(6.11.6)(2) 塗装
・ ウレタン樹脂ワニス塗り(1液形、B種)
・ オイルスチン塗りのうえワックス塗り
・ 生地のまきワックス塗り
・ ()
種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種

11 畳敷き
(6.12.2)
(表6.12.1) 種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種

12 セッコウボード、
その他ボード
及び合板張り
(6.13.2)
(表6.13.1) 材種 種類 厚さ(mm)
・ セッコウボード 壁 ・ 9.5(準不燃)
・ 12.5(不燃)
天井 ・ 9.5(準不燃)
・ 12.5(不燃)
・ 化粧セッコウボード ・ トラバーチン模様 ・ 9.5(準不燃)
・ 木目模様 ・ 9.5(準不燃)
・ 普通 ・ 9
・ ロックウール化粧吸音板 ・ 立体模様
・ けい酸カルシウム板 ・ タイプII 0.8FK

(6.13.2)(h) 遮音シール材
・ シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド

(6.13.3)(e)(3) 合板類の張付け
・ A種 ・ B種

(6.13.3)(g)(1)
(表6.13.5) セッコウボードの目地工法
・ 継目処理 ・ 突付け ・ 目透し

13 壁紙張り
(6.14.2) 施工箇所 品質 防火性能
・ 不燃 ・ 準不燃
・ 不燃 ・ 準不燃
・ 不燃 ・ 準不燃

14 モルタル塗り
(6.15.3) 既製目地材 ・ 使用する(形状:)
床の目地 ・ 図示(図面番号:)

15 タイル張り
(6.16.2)
(6.16.3) 伸縮調整目地
位置 ・ 図示(図面番号:)
タイルの種類
施工箇所 形状寸法 工法 用途による区分 すべり抵抗性 区分 I類(磁器) II類(せっころ) III類(陶器) 役物 標準・特注色 耐凍害性有無

(6.16.3)(b)(1) 試験張り ・ 行う ・ 行わない
見本焼き ・ 行う ・ 行わない

16 セルフレバ
リング材塗り
(6.17.2)
(6.17.3) ・ セッコウ系 ・ セメント系
塗厚()mm

17 断熱材
(9.5.2) 断熱材打込み工法
種類 ・ A種 ・ B種
種類 種類 厚さ(mm) 施工箇所
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム
・ 押出法ポリスチレンフォーム
・ A種硬質ウレタンフォーム
・ フェノールフォーム

(9.5.3) 断熱材現場発泡工法(吹付硬質ウレタンフォーム)
種類 厚さ(mm) 施工箇所
・ A種1 ・ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフトレンドりの床版
・ A種2 ・ () 下等、部分的に後張りとしなければならない箇所
・ A種3 ・ ()

7 塗装
改修工事
1 材料
(7.1.3)(b) ・ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・ 次の箇所を除き防火材料とする。(箇所:)

2 下地調整
(7.2.1~7.2.7)
(表7.2.1)~
(表7.2.7) 既存塗膜の除去範囲(塗り替えてR B種の場合)
・ 図示(図面番号: A-9、A-14、A-15)
種類
下地 種類 ひび割れ部の補修
・ 木部 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種
・ 鉄鋼面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種
・ 垂鉛めっき鋼面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種
・ モルタル、プaster面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ 行う
・ コンクリート、ALCパネル面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ 行う
・ コンクリート、押出成形セメント板面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ 行う
・ セッコウボード、その他ボード面 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種

3 錆止め塗料塗り
(7.3.2)
(7.3.3)
(表7.3.3)~
(表7.3.4) 錆止め塗料種類
・ 垂鉛めっき鋼面
・ A種 ・ B種 ・ C種
錆止め塗料塗り種類
鉄鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種
垂鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種

4 合成樹脂調合
ペイント塗り(SOP)
(7.4.2)
(7.4.3~7.4.5)
(表7.4.1)~
(表7.4.3) 塗料種類 ・ 1種 ・ ()
種類
下地 種類
・ 木部 ・ A種 ・ B種 ・ C種
・ 鉄鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種
・ 垂鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種

5 クリヤラッカー
塗り(L)
(7.5.2)
(表7.5.1) 種類
木部 ・ A種 ・ B種

6 アクリル樹脂系
非水分散形塗料
(NAD)
(7.7.2)
(表7.7.1) 種類
A種 ・ B種

7 耐候性塗料塗り
(DP)
(7.8.2)~
(7.8.4)
(表7.8.1)~
(表7.8.3) 上塗り等級
・ 1級(フッ素系) ・ 2級(シリコン系) ・ 3級(ポリウレタン系)
下地 種類
鉄鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種
垂鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種
コンクリート面及び
押出成形セメント板面 ・ A-1種 ・ A-2種
・ B-1種 ・ B-2種
・ C-1種 ・ C-2種

8 つや有合成樹脂 エマルションペ イント塗り (EP-6) (7.9.2)~(7.9.5) (表7.9.1)~ (表7.9.4)	種別	下地	種別
	・ A種 ・ B種 ・ C種	コンクリート、モルタル、 プaster、せつこうボード、 その他ボード面	・ A種 ・ B種 ・ C種 しみ止め ()
	・ A種 ・ B種 ・ C種	木部 (屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種
	・ A種 ・ B種 ・ C種	鉄鋼面 (屋内)	・ A種 ・ B種 ・ C種
9 合成樹脂エマ ルションペ イント塗り (EP) (7.10.2) (表7.10.1)	種別	・ A種 ・ B種 ・ C種	しみ止め ()
10 合成樹脂エマ ルション模様塗 料塗り (EP-T) (7.11.2) (表7.11.1)	種別	・ A種 ・ B種 ・ C種	
11 ウレタン樹脂 ワニス塗り (UC) (7.12.2) (表7.12.1)	種別	・ A種 ・ B種	
12 ラッカーエナ メル塗り (LE) (7.13.2) (表7.13.1)	種別	・ A種 ・ B種	
13 木造保護塗料 塗り (WP) (7.15.2) (表7.15.1)	種別	・ A種 ・ B種	

8 の 1 耐震改修工事 共通事項	(一般事項) 1 適用範囲 (8.1.1) (8.1.2)	<p>工事内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 鉄骨フレームの設置工事 柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法) 柱補強工事 (鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法) 柱補強工事 (連続繊維補強工法) 耐震スリット新設工事 免震改修・制震改修工事 <p>工事種別</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄筋工事 あと施工アンカー工事 コンクリート工事 鉄骨工事 グラウト工事 連続繊維補強工事 スリット新設工事 免震改修・制震改修工事 基礎工事
-------------------------------	--	---

8 の 2 耐震改修工事 撤去工事	1 既存部分の撤去等 (8.21.2)	<p>撤去の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示 (図面番号:) 新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分 既存コンクリート撤去範囲に面する部分 () <p>既存設備機器、配管撤去、新設、移設等処置</p> <p>本工事の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分 設備機器及び配管、盤類の撤去及び処分は本工事の範囲としない。 () <p>撤去範囲 図示 (図面番号:)</p>											
	2 既存構造体の撤去 (8.21.2) (8.22.2) (8.23.2) (8.24.2)	<p>既存構造体の撤去</p> <p>撤去範囲 図示 (図面番号:)</p> <p>はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断</th> <th>適用</th> </tr> <tr> <td>・ 既存鉄筋は切断せず残す</td> <td>・ 図示 (図面番号:) ・ 全ての撤去部分 () ・ () ・ 適用なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する</td> <td>・ 図示 (図面番号:) ・ 全ての撤去部分 () ・ () ・ 適用なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する</td> <td>・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ()</td> <td></td> </tr> </table> <p>はつりだした鉄筋の処置</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄筋に損傷を与えないよう適切な養生を施す。 () <p>はつりだした鉄骨の処置</p> <ul style="list-style-type: none"> コンクリート等を除去し鉄面を表す。 () <p>(既存部分の処理)</p> <p>3 既存構造体コンクリートの表層目荒らし (8.21.3) (8.22.3) (8.23.3)</p> <p>既存構造体コンクリート面の表層目荒らし</p> <ul style="list-style-type: none"> 目荒らし程度 平均深さ5~10mmで最大深さ15mm程度の凹凸を100mm間隔程度で施す 図示 (図面番号:) 	既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断		適用	・ 既存鉄筋は切断せず残す	・ 図示 (図面番号:) ・ 全ての撤去部分 () ・ () ・ 適用なし		・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・ 図示 (図面番号:) ・ 全ての撤去部分 () ・ () ・ 適用なし		・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ()
既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断		適用											
・ 既存鉄筋は切断せず残す	・ 図示 (図面番号:) ・ 全ての撤去部分 () ・ () ・ 適用なし												
・ コンクリートの撤去範囲の周囲より一定長さを残し切断する	・ 図示 (図面番号:) ・ 全ての撤去部分 () ・ () ・ 適用なし												
・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は切断する	・ 切断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ()												

8 の 3 耐震改修工事 鉄筋工事	1 鉄筋 (8.2.1) (表8.2.1)	<p>材料 改修標準仕様書(表8.2.1)による</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>径 (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ SD295A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SD345</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SD390</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td></td> </tr> </table>	種別	径 (mm)	・ SD295A		・ SD345		・ SD390		・ ()														
	種別	径 (mm)																							
	・ SD295A																								
	・ SD345																								
・ SD390																									
・ ()																									
2 溶接金網 (8.2.2)	<p>網目の形状、寸法及び鉄線の径</p> <table border="1"> <tr> <th>網目の形状、寸法</th> <th>鉄線の径 (mm)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	網目の形状、寸法	鉄線の径 (mm)																						
網目の形状、寸法	鉄線の径 (mm)																								
3 加工 (8.3.2)	90°未満の折曲げの内法直径 図示 (図面番号:)																								
4 鉄筋の継手及び定着 (8.3.4)	<table border="1"> <tr> <th>径</th> <th>部位</th> </tr> <tr> <td>重ね継手</td> <td>・ D16以下</td> </tr> <tr> <td>ガス圧接</td> <td>・ D19以上</td> </tr> </table> <p>主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 改修標準仕様書(8.3.4)(c)(1)による 図示 (図面番号:) <p>継手位置</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部配筋参考図による 図示 (図面番号:) <p>先組み工法等</p> <ul style="list-style-type: none"> 柱・梁主筋の継手を同一箇所にはける <p>鉄筋の定着長さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 改修標準仕様書(表8.3.4)による 図示 (図面番号:) <p>帯筋組立の形</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示 (図面番号:) 	径	部位	重ね継手	・ D16以下	ガス圧接	・ D19以上																		
径	部位																								
重ね継手	・ D16以下																								
ガス圧接	・ D19以上																								
5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)	<p>軽量コンクリートに土に接する部分</p> <ul style="list-style-type: none"> 無し 有り 適用箇所 () <p>最小かぶり厚さ () mm</p> <p>耐久性上不利な部分 (増害を受けるおそれのある部分等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 無し 有り 適用箇所 () <p>最小かぶり厚さ () mm</p>																								
6 各部配筋 (8.3.6)	図示 (図面番号:)																								
7 ガス圧接 (8.3.8)	<p>圧接完了後の試験</p> <p>超音波探傷試験 行う 行わない</p>																								
(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨フレームの設置工事等)	<p>割製補強筋の適用</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材料</th> <th>材種</th> <th>径</th> <th>本数・ピッチ</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ スパイラル筋</td> <td rowspan="2">・ 鉄筋コンクリート用棒鋼</td> <td>・ R235</td> <td>・ 6φ</td> <td>・ スパイラルの径 (mm)</td> <td rowspan="2">・ 図示 (図面番号:)</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ 9φ</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ はしご筋</td> <td rowspan="2">・ 鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)</td> <td>・ 295A</td> <td>・ 10</td> <td>・ 壁内方向筋 ()</td> <td rowspan="2">・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ 壁面外方向筋 ()</td> </tr> </table>	種類	材料	材種	径	本数・ピッチ	適用箇所	・ スパイラル筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼	・ R235	・ 6φ	・ スパイラルの径 (mm)	・ 図示 (図面番号:)	・ ()	・ 9φ	・ ()	・ はしご筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	・ 295A	・ 10	・ 壁内方向筋 ()	・ ()	・ ()	・ ()	・ 壁面外方向筋 ()
種類	材料	材種	径	本数・ピッチ	適用箇所																				
・ スパイラル筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼	・ R235	・ 6φ	・ スパイラルの径 (mm)	・ 図示 (図面番号:)																				
		・ ()	・ 9φ	・ ()																					
・ はしご筋	・ 鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	・ 295A	・ 10	・ 壁内方向筋 ()	・ ()																				
		・ ()	・ ()	・ 壁面外方向筋 ()																					
9 鉄筋の機械式継手及び溶接継手 (8.4.2) (8.4.3)	<p>機械式継手</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>工法</th> <th>修正方法</th> <th>品質の確認方法</th> <th>鉄筋相互のあき</th> </tr> <tr> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>() mm</td> </tr> </table> <p>溶接継手</p> <table border="1"> <tr> <th>工法</th> <th>修正方法</th> <th>品質の確認方法</th> <th>鉄筋相互のあき</th> </tr> <tr> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>() mm</td> </tr> </table>	種類	工法	修正方法	品質の確認方法	鉄筋相互のあき	()	()	()	()	() mm	工法	修正方法	品質の確認方法	鉄筋相互のあき	()	()	()	() mm						
種類	工法	修正方法	品質の確認方法	鉄筋相互のあき																					
()	()	()	()	() mm																					
工法	修正方法	品質の確認方法	鉄筋相互のあき																						
()	()	()	() mm																						

8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	(コンクリート工事一般事項)	<p>コンクリートの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> I類 II類 																							
	1 コンクリートの種類及び強度 (8.1.3) (8.1.4)	<p>普通コンクリートの設計基準強度</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度F_c [N/mm²]</th> <th>適用範囲</th> <th>気乾単位容積質量</th> <th>スランプ</th> </tr> <tr> <td>・ 21</td> <td>・ 2.3t/m³程度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	設計基準強度F _c [N/mm ²]	適用範囲	気乾単位容積質量	スランプ	・ 21	・ 2.3t/m ³ 程度			・ ()														
	設計基準強度F _c [N/mm ²]	適用範囲	気乾単位容積質量	スランプ																					
	・ 21	・ 2.3t/m ³ 程度																							
・ ()																									
(8.9.1) (8.9.2) (表8.9.1)	<p>軽量コンクリートの設計基準強度</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度F_c [N/mm²]</th> <th>種別</th> <th>適用範囲</th> <th>気乾単位容積質量</th> <th>所要気乾単位容積質量</th> <th>スランプ</th> </tr> <tr> <td>・ 36</td> <td>・ 1類</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ 2類</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	設計基準強度F _c [N/mm ²]	種別	適用範囲	気乾単位容積質量	所要気乾単位容積質量	スランプ	・ 36	・ 1類					・ ()	・ 2類					・ ()					
設計基準強度F _c [N/mm ²]	種別	適用範囲	気乾単位容積質量	所要気乾単位容積質量	スランプ																				
・ 36	・ 1類																								
・ ()	・ 2類																								
・ ()																									
2 構造体コンクリートの仕上り (8.1.4)	<p>合板せき板を用いる場合の打放し仕上げの種別</p> <ul style="list-style-type: none"> A種 B種 C種 																								
(コンクリート)	<p>セメントの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 () () 高炉セメントB種又はフライアッシュセメントB種 () 適用箇所 () 																								

4 混和材料 (8.2.5)	骨材	<p>アルカリシリカ反応性による区分</p> <ul style="list-style-type: none"> A L (コンクリート中のアルカリ総量を規制) A (安全と認められる骨材を使用) <p>なお、A Lで規制できない場合は、Aとし、その試験は、施工着手前、工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が生コン工場のストッカーヤードから試料を採取して試験を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特殊な骨材の使用 フェロニッケルスラグ骨材 銅スラグ骨材 電気炉酸化スラグ骨材 再生骨材H 																	
	5 調合管理強度 (8.2.5) (8.8.3) (8.10.2)	<p>構造体強度補正值 (S)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3N/mm² 6N/mm² () 																	
	6 型枠 (8.2.7) (8.7.8)	<p>材料</p> <ul style="list-style-type: none"> 複合合板 (厚さ 12mm ()) <p>スリーブ</p> <ul style="list-style-type: none"> 改修標準仕様書(8.2.7)(g)(2)(i)による 改修標準仕様書(8.2.7)(g)(2)(ii)による 材種 () 規格 () 																	
	7 層中コンクリート (8.10.2)	<p>構造体強度補正值 (S)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6N/mm² () 																	
8 無筋コンクリート (8.11.1)	<p>構造体強度補正值 (S)</p> <ul style="list-style-type: none"> 18N/mm² () <p>スラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> 15cm 18cm () 																		
(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事、溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法)	<p>部位別のコンクリートの打設工法の指定</p> <table border="1"> <tr> <th>補強工法</th> <th>打設工法</th> <th>部位</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事</td> <td>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)</td> <td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)</td> <td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法</td> <td>・ 工法指定なし</td> <td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)</td> <td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">10 増設壁工事後の仕上げ (8.21.10) (8.23.7)</td> <td>・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)</td> <td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 工法指定なし</td> <td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()</td> </tr> </table>	補強工法	打設工法	部位	現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	10 増設壁工事後の仕上げ (8.21.10) (8.23.7)	・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()
補強工法	打設工法	部位																	
現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																	
	・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																	
鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																	
	・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(1)及び(b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																	
10 増設壁工事後の仕上げ (8.21.10) (8.23.7)	・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(a)(2)及び(c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																	
	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()																	
9 コンクリートの打込み工法等 (8.21.8) (8.23.5)	<p>柱頭柱脚の隙間部間の型枠</p> <ul style="list-style-type: none"> 発泡プラスチック保温材等を埋込む () <p>柱脚柱脚の隙間寸法</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示 (図面番号:) <p>打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示 (図面番号:) 60mm () 																		
10 増設壁工事後の仕上げ (8.21.10) (8.23.7)	<p>図示 (図面番号:)</p>																		

8の5 耐震改修工事
 あと施工アンカー工事

1 あと施工アンカーの材料 (8.2.4) (表8.2.2)

種類
 ・ 金属系 セットの方式 ・ 本体打込み式 (・ 改良型 ・ 従来型)
 径及び埋込み深さ ・ 図示 (図面番号:)
 引張耐力 ・ 図示 (図面番号:)
 セン断耐力 ・ 図示 (図面番号:)
 接合筋の種類・径・長さ ・ 図示 (図面番号:)

・ 接着系 カプセル型回転 ・ 打撃式 ・ 有機系 ・ 無機系
 径及び埋込み深さ ・ 図示 (図面番号:)
 引張耐力 ・ 図示 (図面番号:)
 セン断耐力 ・ 図示 (図面番号:)
 アンカー筋の種類 ・ 図示 (図面番号:)
 アンカー筋の新設壁内への定着長さ ・ 図示 (図面番号:)

あと施工アンカーの性能確認試験 ・ 行う ・ 行わない

2 あと施工アンカーの施工 (8.12.2) (8.12.4) (8.12.5)

穿孔
 埋込み配管等の探査の方法
 ・ 鉄筋探知機 (金属探知機) により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
 ・ はつり出しによる。
 ・ ()

あと施工アンカーの施工確認試験 ・ 実施する ・ 実施しない
 確認試験方法
 ・ 改修標準仕様書 (8.11.5) による ・ ()

確認強度
 ・ ()

場所打ちコンクリート壁の増設工事 (8.12.2) (8.12.4) (8.12.5)

場所打ちコンクリート壁の打増部に用いる既存部とのシアコネクタ
 種類 ・ 金属系あと施工アンカーの異形差筋アンカー
 ・ 接着系あと施工アンカーの異形差筋アンカー

3 シアコネクタ (8.12.5)

径 [mm] ・ D10
 長さ [mm] ・ 増打壁厚 - 40 ・ ()
 埋込み深さ [mm] ・ 5 d (d: シアコネクタの径) 以上 ・ ()
 間隔 [mm] ・ 500 × 500

シアコネクタとセパレーターの兼用 ・ 兼用してもよい ・ 兼用しない ・ ()

8の6 耐震改修工事
 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場 (8.1.5)

鋼日本鉄骨評価センター又は鋼全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工事の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
 ・ J ・ R ・ M ・ H ・ S

2 施工管理技術者 (8.1.5)

施工管理技術者 (鉄骨製作管理技術者、鉄骨工事管理責任者等) の適用
 ・ しない ・ する

3 鋼材 (8.2.8)

材質・形状及び寸法 ・ 図示 (図面番号:)

4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)

高力ボルトの適用
 ・ トルシア形高力ボルト 2種 (S10T)
 ・ JIS形高力ボルト 2種 (F10T)
 ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト 1種 (F8T相当)

高力ボルトの径
 ・ 図示 (図面番号:)

すべり係数試験
 ・ 行う

試験方法等
 ・ 図示 (図面番号:)

JIS形・ナット回転法かつボルト長がねじの5倍を超える場合の回転数
 ・ ()

5 仮組 (8.13.10)

仮組の実施
 ・ 実施する () ・ 実施しない

6 技能資格者 (8.15.3)

溶接作業における技能資格者の技量付加試験
 ・ 実施する () ・ 実施しない

7 溶接部の試験 (8.15.11)

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
 工場溶接の場合
 ・ 全数試験とする
 ・ 公共建築工事標準仕様書 (平成28年版) (7.6.11) (b) による。
 平均出検品質限界 (AQL) ・ 4.0% ・ 2.5% ・ ()
 検査水準 ・ 第6水準 ・ ()
 ロットの構成 ()

工事現場溶接の場合
 ・ 全数試験とする
 ・ 公共建築工事標準仕様書 (平成28年版) (7.6.11) (b) による。
 平均出検品質限界 (AQL) ・ 4.0% ・ ()

8 溶接材料 (8.2.10)

・ 改修標準仕様書 (8.2.10) (a) (b) 以外の溶接材料
 材料及び使用箇所 ・ 図示 (図面番号:)

9 溶接接合 (8.15.4) (8.15.7)

開先の形状 ・ 図示 (図面番号:)
 スカープの形状 ・ 図示 (図面番号:)

10 錆止め塗装 (8.17.3)

鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る)
 ・ 改修標準仕様書 (7.3.2) (表7.3.1) () 種
 耐火被覆材の接着する面への塗装
 ・ 行う ・ 行わない
 適用箇所 図示 (図面番号:)
 種類
 ・ 改修標準仕様書 (7.3.2) (表7.3.1) () 種

8の7 耐震改修工事
 グラウト工事

1 1 耐火被覆材の種類及び性能 (8.18.2) (8.18.3)

部位	種類	仕様

2 プレース設置工事後の仕上げ
 ・ 図示 (図面番号:)

1 (グラウト工事)
 1 モルタル及びびぐラウト材 (8.2.6) (8.2.11) (表8.2.5) (8.2.10)

構造体用モルタル
 ・ 改修標準仕様書 (8.2.6) 及び (8.2.11) による。
 無収縮モルタル
 ・ 改修標準仕様書 (8.2.11) (a) による
 ・ ()

グラウト材
 ・ 改修標準仕様書 (8.2.11) (b) による。

現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨プレースの設置工事等)
 増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法

部位	処理方法	備考
増設壁の上部	グラウト材を注入	寸法は図示による
()	()	()
()	()	()

2 既存構造体との取合部の処理方法 (8.21.9) (8.22.7)

8の8 耐震改修工事
 柱補強工事

1 連続繊維補強工事 (8.24.1)

連続繊維シート等による工法
 ・ (財)日本建築防災協会の評価を受けた工法とする。
 ・ ()

2 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等の材料 (8.23.6)

連続繊維の材料
 ・ ()
 工法
 ・ ()
 引張強度 (含浸硬化後)
 ・ ()
 ヤング係数 (含浸硬化後)
 ・ ()

3 連続繊維シートの施工準備 (8.23.7)

仕上げモルタルの除去
 ・ 既存構造体面まで除去する
 ・ モルタル除去は行わない
 ・ ()

既存モルタルの圧縮強度測定
 ・ 行う ()
 ・ 行わない

ひび割れ部の改修工法
 ・ 樹脂注入工法
 ・ Uカットシール材充填工法
 ・ シール工法

4 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)

柱頭柱脚の隙間寸法
 ・ 図示 (図面番号:)

5 耐震補強後の仕上げ (8.23.7) (8.24.5)

・ 図示 (図面番号:)

6 炭素繊維シートの施工 (8.24.4)

炭素繊維の目付量
 ・ 図示 (図面番号:)
 ・ 200g/m²
 ・ 300g/m²
 ・ ()

炭素繊維シートの巻き数
 ・ 図示 (図面番号:)
 ・ 1巻き
 ・ 2巻き
 ・ ()

7 連続繊維補強材の強度試験 (8.24.4)

引張強度試験
 ・ 実施する (JIS A1191に準拠する)
 試験数量 ()
 ・ 実施しない

8の9 耐震補強工事
 スリット新設工事
 免震改修工事

1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)

耐震スリットの種類及び形状
 完全スリットの形状

	一般型	一面せん断型
記号		
形状	・ 図示 (図面番号:)	・ 図示 (図面番号:)
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:)	・ 図示 (図面番号:)
既存鉄筋の処理	・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 切断してよい ・ ()

部分スリットの形状

	片側スリット	両面スリット
記号		
形状	・ 図示 (図面番号:)	・ 図示 (図面番号:)
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:)	・ 図示 (図面番号:)
目地部の残存厚さ ts (mm)	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下 ・ ()	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下 ・ ()
既存鉄筋の処理	・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 存置する ・ 切断してよい ・ ()

2 スリットの施工 (8.26.1)~(8.26.17)

スリット部の配管等の調査
 範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。
 ・ 図示 (図面番号:)
 ・ ()

方法 ・ 鉄筋探知機 (金属探知器) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。

スリットの選択位置
 壁上部部 ・ 梁との接合部 ()
 壁の突きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がした突きわ部 ()
 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ()

撤去部の補修
 ・ 図示 (図面番号:)

充填材
 ・ 耐火材 使用箇所 () 仕様 ()
 ・ 遮音材 使用箇所 () 仕様 ()

免震改修、制震改修に関する仕様は、図示する。

8の10 その他工事

1 基礎工事 (8.28.2) (8.28.3)

既存杭の撤去
 ・ 図示 (図面番号:)
 埋戻し及び盛土の材料及び工法
 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種

建設発生土の処理
 ・ 自由処分
 ・ 処分地指定 処分地 ()
 ・ 処分地未定につき相互協議する。暫定運搬距離 8km

山留めの撤去
 ・ 撤去
 ・ 存置

2 地業工事 (8.28.4)

杭の施工監理
 杭工事特記仕様書による。
 適用基準
 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。
 国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」 (平成28年3月4日)

施工記録
 受注者は、杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。
 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。

根拠資料
 共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第31条第4項又は第5項 (第38条においてこれらの規定を準用する場合を含む。) の規定による引渡しを受けた日から10年とする。
 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。

試験杭及び試験
 ・ 試験杭 位置、本数及び寸法は図示 (図面番号:) による。
 ・ 試験掘 位置、本数及び寸法は図示 (図面番号:) による。

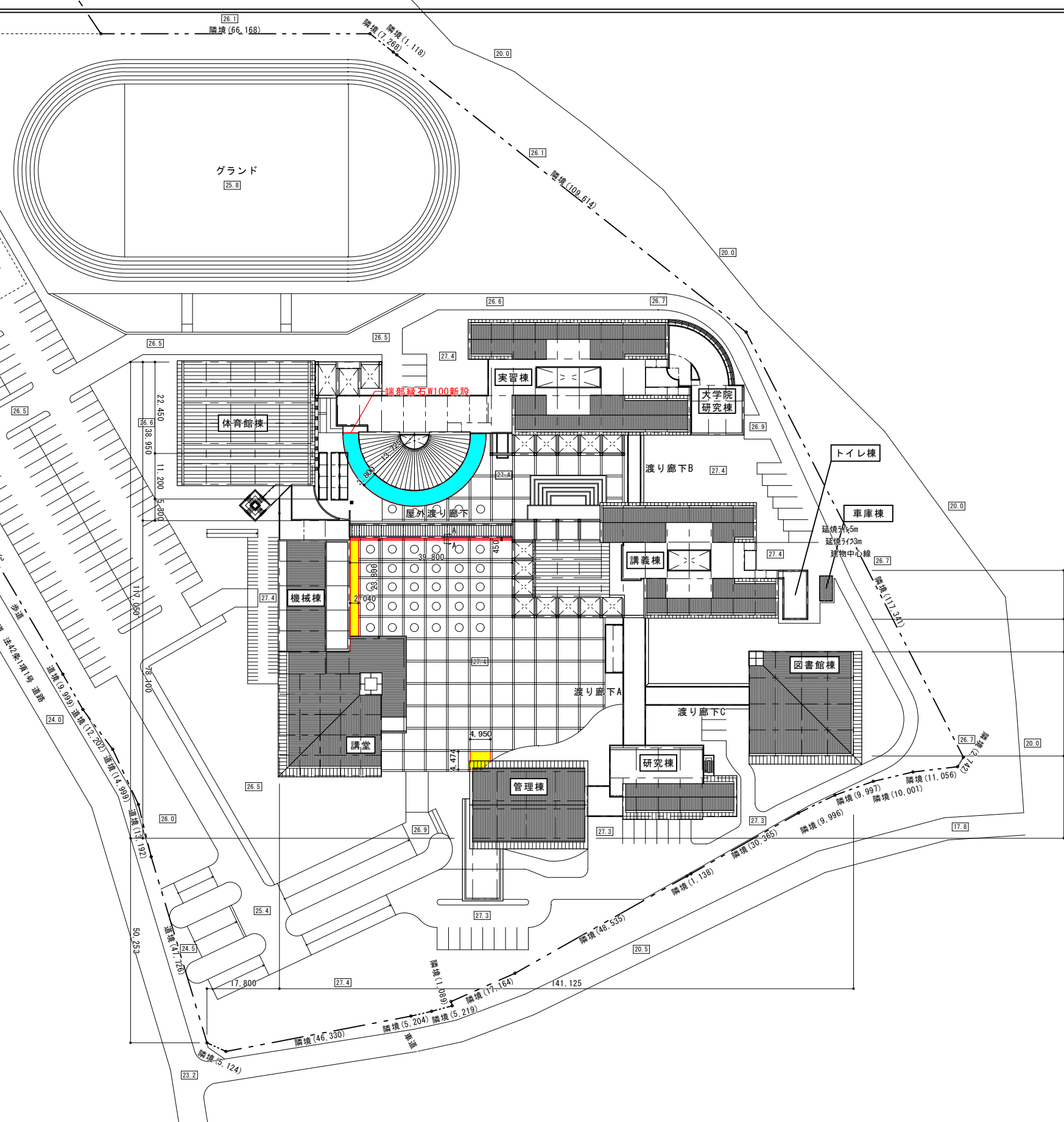
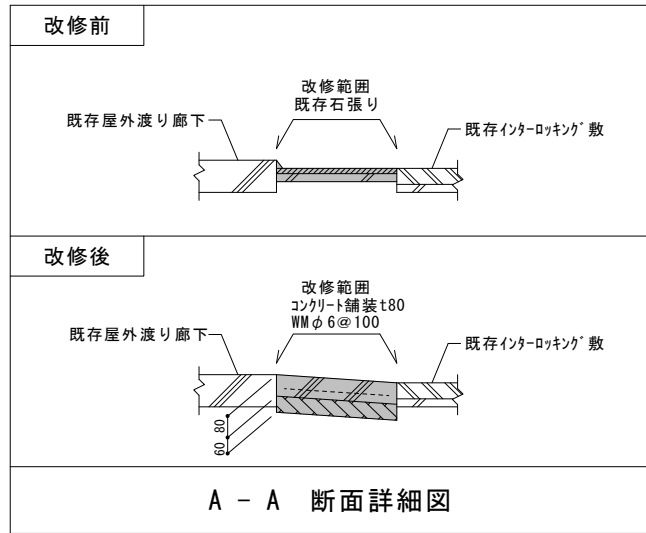
杭の支持地盤
 支持地盤の位置、種類 ・ 図示 (図面番号:) ・ ()

水平方向のずれ
 () mm以下

杭の載荷試験
 試験方法 ・ 鉛直載荷 ・ 水平載荷 ・ ()
 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。
 位置 ・ 図示 (図面番号:) 載荷荷重 () kN
 報告書 ・ 提出部数 2部



- インターロック【撤去】
 コンクリート舗装 t150、WMφ6@150、砕石敷t60【新設】
 磁器質100角材張り LIXIL:ヒアツロX程度【新設】
 (天端: 既存床仕上げ合わせ)
- インターロック【一時撤去・復旧】
 路盤不陸整正、インターロック【復旧再利用】
 (天端: 既存床仕上げ合わせ)
- 既存石張り【撤去】
 コンクリート舗装 t150、WMφ6@150、砕石敷t60【新設】
 (天端: 既存床仕上げ合わせ)



備		公益財団法人 三重県建設技術センター	
考			

	DATE	2022 - 10
	SCALE	A2:1/800 A3:1/1120
	設計担当者	
A-07		